

都市再生整備計画(第4回変更)

かもしがいちちく
加茂市街地地区

にいがたけんかもし
新潟県加茂市

平成30年1月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	加茂市	地区名	加茂市街地地区	面積	770 ha
計画期間	平成	26	年度	～	平成	30	年度
交付期間	平成	26	年度	～	平成	30	年度

目標

近年の異常災害等の突発的災害に素早く対応できる防災都市づくりを目指し、既成市街地内の都市基盤整備を進め災害に強い安全で安心して暮らせる魅力ある地域づくりを進めると共に、北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりを目指す。

- ①防災に強い安全で安心して暮らせる魅力ある地域づくりを目指し、住宅密集地域に、不足している防災空間としての公園等オープンスペースの確保、恒常的浸水区域の解消を図るため小河川の整備など防災に素早く対応できる防災性の高い都市基盤整備により既成市街地の再生を図る。
- ②商店街メインストリートの都市計画道路宮寄上加茂線(新町街区)の道路拡幅事業と商店街近代化事業に併せ歩道敷に全国で初めての和風耐火木造雁木造りを進めると共に文化的古民家の建物群の保全に努め北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりを推進し文化的観光交流都市の実現を目指す。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

当市は三方を山に囲まれ、加茂川の清流沿いに市街地が形成され、その自然・風土・街の風情から「北越の小京都」と呼ばれている。昭和42、44年の大水害を契機に既成市街地において大規模な加茂川河川改修が実施され、その移転地として西地区に土地区画整理事業が実施され新たに市街地が形成した。当市の中心商店街はJR信越本線加茂駅を表玄関としたメイン通り約1,500mに8商店街が連なり盛んに商が営まれている。中心商店街の近代化、活性化は、昭和54年の駅前、穀町、本町3商店街の土地区画整理事業に始まり平成6年には仲町、上町、五番町のメイン通り道路拡張事業により商店街近代化事業が実施され近代的な商店街に生まれ変わった。平成23年度には7商店街目の新町商店街の道路拡幅事業と商店街近代化事業がスタートした。当市は、これまで中心商店街を守るため都市計画法に基づく地区計画区域を指定し郊外型大型店の出店を抑制しつつ手厚く商店街を保護して来たところである。また、既成市街地においては文化的観光交流人口の増加を図るべく平成17年度から平成21年度において加茂川周辺地区都市再生整備事業(まちづくり交付金事業)の実施により地域交流センター(1階食品スーパー・2階多目的ホール、浴場付コミュニティセンター)などの公共施設整備を積極的に配置し既成市街地の再生に取り組んで来た。また、平成20年度から平成24年度にかけて加茂市西部地区都市再生整備事業を実施し、防災に強いまちづくりを目指し避難道路の新設・改良、小河川・排水路、小公園・広場など防災に強い都市基盤施設の整備を行ってきたところである。今後共、異常災害等に素早く対応できる防災都市づくりを目指し、既成市街地内の都市基盤整備を進め防災に強い安全で安心して暮らせ魅力ある地域づくりと北越の小京都の風情をもった魅力あるまちづくりが課題となっている。

課題

- ①近年の異常災害等の突発的災害に素早く対応できる防災都市づくりを目指し、既成市街地内の地域住民が一時的に避難ができる防災空間としての避難所を兼ねた公園等オープンスペースの確保、未整備河川の氾濫による浸水地域の解消など防災に強い都市基盤整備により地域住民が安全で安心して暮らせる魅力ある地域づくりが急務となっている。
- ②都市計画道路宮寄上加茂線(新町街区)の道路拡幅事業と商店街近代化事業に併せて進められている新町雁木通り商店街振興組合の和風建築づくりと歩道敷に全国で初めての和風耐火木造雁木造りと文化的古民家の建物群の保全により北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりを実現し商店街に大勢の市外客が訪れるまちづくりが課題となっている。

将来ビジョン(中長期)

【将来都市像】

第2次加茂市総合計画で掲げる当市の将来像は、「1. 自然に恵まれ潤いとゆとりのあるまち」「2. 各分野の産業が一体となって発展するまち」「3. 教育環境が充実し文化活動が盛んなまち」「4. 健康で温かい心のかよいうまち」「5. 安全で快適な暮らしよいまち」である。また、同計画における当地区内の中心市街地の整備として「市民生活の快適性・安全性の確保」「地域の特性を生かした潤いある街並みの確保」「市外からの来訪者にとっても魅力のあるまちづくり」が挙げられる。

【まちづくりへ向けた今後の構想】

既成市街地の道路、公園、河川などの都市基盤整備により地域住民が防災に強い安全で安心して暮らせる魅力ある地域づくりと北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりにより大勢の人々が往来するまちづくりを実現する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
新町木造雁木 歩行者数	人/日	新町木造雁木における平日12時間の断面歩行者数	目標②の北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりに関連し、木造雁木により魅力を創出した商店街通りの利用者数を把握する。	450	平成26年	900	平成30年
新町多目的広場イベント参加者数	人/回	新町多目的広場において開催するイベントの参加者数	目標②の北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりに関連し、多目的広場で開催するイベントの参加者数を把握する。	0	平成26年	250	平成30年
避難場所の認知度	%	本事業で整備する公園・広場の周辺住民に対し、整備後の利用状況と災害時の避難場所としての認知度を伺い、「避難場所として認知している」人の割合を算出する。	目標①の防災に強い地域づくりに関連し、本事業で整備する公園・広場の避難場所としての認知度を把握する。	0	平成26年	70	平成30年
探訪ツアーの参加者数	人/回	加茂市の名所、旧跡を巡るツアーの参加者数	目標②の北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりに関連し、加茂市の名所、旧跡を巡るツアーの参加者数を把握する。	150	平成26年	200	平成30年
交流施設の年間利用者数	人/年	加茂市の交流施設の年間利用者の総数	目標①防災に強い安全で安心して暮らせる魅力ある地域づくり関連し、加茂市の交流施設の年間利用者の総数を把握する。	272,000	平成27年	273,000	平成30年
黒水地区における浸水予想面積	ha	加茂市大字黒水地区において集中豪雨時に浸水被害が予想される区域の面積	準用河川堰ノ川のバイパス排水路を整備することにより、集中豪雨時に浸水被害が予想される範囲を減少させる。	3.2	平成29年	0	平成30年

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(防災に強い安全で安心して暮せる魅力ある地域づくりの実現) 災害時に地域住民が一時的に避難できる公園・広場等の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・八幡の森公園整備事業(基幹事業) ・信濃川河川敷桃の花公園整備事業(基幹事業) ・都ヶ丘公園整備事業(基幹事業) ・幸町公園整備事業(基幹事業) ・北地域交流センター(基幹事業) ・北地域交流センター駐車場整備事業(基幹事業) ・準用河川堰ノ川バイパス排水路整備事業(基幹事業) ・新町多目的広場整備事業(基幹事業) ・準用河川堰ノ川浸水対策整備事業(提案事業)
<p>整備方針2(北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりの実現) 街路事業に併せて行われる商店街の和風建築に合せた木造雁木整備及び歴史的価値のある建物の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新町多目的広場整備事業(基幹事業) ・新町木造雁木づくり整備事業(基幹事業) ・新町交流センター整備事業(基幹事業) ・賀茂次郎源義綱記念碑整備事業(提案事業)
<p>その他</p>	
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

加茂市街地地区(新潟県加茂市)	面積 770 ha	区域 西加茂、下条、天神林、山島新田、加茂新田、千刈、学校町、希望ヶ丘、須田
-----------------	--------------	---

